

日本アレルギー学会 北陸支部 第4回地方会

プログラム・抄録集

開催日：令和4年(2022年)11月23日(水)

会場：オンライン開催(Web 配信)

H P：<https://gakkai-gran.jp/jsah4/>

会長：三輪 高喜(金沢医科大学)

日 程 表

令和4年(2022年)11月23日(水)

| | | | |
|------|-------------|--------------------------|--|
| | 8:55~9:00 | 開会の挨拶 | |
| 午前の部 | 9:00~9:50 | 一般演題 内科(5演題) | 座長:原 丈介(金沢大学附属病院呼吸器内科) |
| | 10:00~10:40 | 一般演題 耳鼻咽喉科(4演題) | 座長:將積 日出夫(富山大学耳鼻咽喉科頭頸部外科) |
| | 10:50~11:20 | 一般演題 小児科(3演題) | 座長:中村 利美(とどろき医院) |
| | 11:20~11:40 | 一般演題 皮膚科(2演題) | 座長:尾山 徳孝(福井大学医学部皮膚科学講座) |
| | 12:10~13:10 | ランチョンセミナー 共催 サノフィ株式会社 | 「喘息の現状と病態に応じた治療の 必要性について」 座長:水野 史朗(金沢医科大学 呼吸器内科学 教授) 演者:横山 彰仁(高知大学医学部呼吸器・アレルギー内科学 教授) |
| 午後の部 | 13:15~14:00 | 教育講演1 | 「小児喘息における Exosome の影響」 座長:大嶋 勇成(福井大学医学部附属病院小児科) 演者:足立 雄一(富山大学学術研究部医学系小児科) |
| | 14:05~14:50 | 教育講演2 | 「肺癌診療における 免疫チェックポイント阻害薬の使いどころ」 座長:石塚 全(福井大学医学系部門内科学(3)分野) 演者:高原 豊(金沢医科大学呼吸器内科) |
| | 14:55~15:40 | 教育講演3 | 「蕁麻疹の病態と治療」 座長:清水 晶(金沢医科大学病院皮膚科) 演者:西部 明子(金沢医科大学氷見市民病院皮膚科) |
| | 15:45~16:30 | 教育講演4 | 「嗅覚障害 最新の話」 座長:藤枝 重治(福井大学医学部附属病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科) 演者:三輪 高喜(金沢医科大学耳鼻咽喉科) |
| | 16:30~16:35 | 閉会の挨拶 | |

参加者の皆様へ

開催概要

日本アレルギー学会北陸支部第4回地方会

開催日：令和4年(2022年)11月23日(水)

会場：オンライン開催(Web配信)

H P： <https://gakkai-gran.jp/jsah4/>

会長：三輪 高喜(金沢医科大学)

参加登録・参加費のお支払い

事前参加登録期間

令和4年10月1日(土)00:00～11月23日(水)16:00

※今回はオンライン開催のため、参加登録はホームページからのみ受け付けます。

参加費

学会員：1,000円

非学会員：3,000円

参加登録・参加費のお支払いについて

本学会では、参加登録・参加費の決済に「株式会社 Urbs」が運営する「Payvent」と、「株式会社メタップスペイメント」が運営する「イベントペイ」を利用しています。

カード決済をご利用いただく場合は「Payvent」、コンビニ決済をご利用いただく場合は「イベントペイ」よりお申し込みください。詳しくは、学会ホームページ内の「参加登録・参加費のお支払い」ページ(<https://gakkai-gran.jp/jsah4/sanka.html>)をご確認ください。

領収書について

カード決済またはコンビニでのご入金をお済ませいただくと、申し込み完了メール※が届きます。メール内のボタンまたは URL より、仮の領収書をダウンロードできます。必要な場合はご利用ください。正式な領収書は、後日参加証とあわせてメールにてお送りいたします。

※メール件名：【参加方法のご案内】参加申込みが完了しました。- 第4回日本アレルギー学会北陸地方会

当日の参加に関するご案内

本学会は、Zoom(ウェビナー)を利用したオンライン開催となります。スムーズな学会進行のため、下記の事前準備にご協力ください。

- (1) インターネット回線の確保
- (2) Zoom のインストールおよび最新版へのアップデート
- (3) (座長・演者のみ)使用するPCに内蔵されていない場合は、Web カメラの準備
- (4) イヤホン・マイク、またはヘッドセットの準備 ※PC内蔵スピーカーの使用はハウリングの原因になります。
- (5) 使用する PC のバッテリー残量の確認

取得単位について

日本アレルギー学会

日本アレルギー学会の以下の単位が認められます。

| | |
|--------------|-----|
| 発表(筆頭)・座長・講師 | 3単位 |
| 出席 | 5単位 |

※但し、地方会の出席、講師・座長に関する単位取得はそれぞれ1年間に1回を上限とする。

日本小児臨床アレルギー学会

日本アレルギー学会地方会参加によって「小児アレルギーエデュケーター」の資格更新単位**5単位**が付与されます。

発表について

持ち時間(一般演題)

口演7分+質疑応答3分

発表方法

PowerPoint (Windows)に限ります。

Zoom ウェビナーマニュアル

「参加登録者専用ページ」に「座長・演者用マニュアル」を掲載しておりますので、ご確認ください。

「参加登録者専用ページ」の URL と閲覧用の ID・パスワードは、参加登録・参加費のお支払いを完了すると届く申し込み完了メール内に記載されています。

午 前 の 部

9:00~9:50 一般演題〈内科〉

座長:原 丈介(金沢大学附属病院呼吸器内科)

1. FNA-EUS を用いてサルコイドーシスの診断に至った 1 例

○山村 孝一¹⁾, 田中 琢弥¹⁾, 石毛 陽子¹⁾, 塩谷 郁代¹⁾, 佐久間 貴士¹⁾, 中瀬 啓介¹⁾, 野尻 正史¹⁾, 西木 一哲¹⁾, 加藤 諒¹⁾, 四宮 祥平¹⁾, 高原 豊¹⁾, 及川 卓¹⁾, 石崎 武志¹⁾, 梅 博久¹⁾, 水野 史朗¹⁾, 上田 善道²⁾

1) 金沢医科大学病院

2) 恵寿総合病院

【症例】72 歳、男性**【主訴】**食欲不振、呼吸困難、**【現病歴】**20XX 年 7 月より食欲不振と呼吸困難を認め近医を受診し胸部エックス線で異常陰影を認め当科紹介となり精査加療目的に入院となった。胸部 CT 検査では両側多発結節影や縦隔リンパ節、肺門リンパ節腫大を認め、気管支鏡検査を検討したが低肺機能でリスクが高く施行困難であったため FNA-EUS を用いて縦隔リンパ節穿刺を施行し非乾酪性累乗非肉下種を認めサルコイドーシスの診断となった。

【考察】縦隔リンパ節への FNA-EUS の有用性は TBNA と比較し診断率には差がなく、呼吸不全発症も少なく施行時間も短かったとの報告がある。本症例のように呼吸不全を認める縦隔リンパ節腫大のアプローチとして FNA-EUS は有用かと思われる。

2. 気管支喘息が新型コロナウイルス感染症(COVID-19)におよぼす影響

○西辻 雅, 田中 智, 中積 広貴, 谷 まゆ子, 曾根 崇, 西 耕一

石川県立中央病院 呼吸器内科

目的; 当院に入院した COVID-19 に対する気管支喘息の影響を検討する。

方法; 2020 年 3 月 1 日から 2021 年 9 月 30 日までに入院した COVID-19 症例 736 例を対象とした。喘息患者の占める割合、背景、重症化の危険因子としてのオッズ比 (OR) を検討した。

結果; 喘息合併例は 39 例 (5.3%)、重症例は 69 例 (9.4%) であり、重症例における気管支喘息合併例は 3 例 (4.3%, OR 0.8, $p=0.71$) であった。

結論; 気管支喘息の合併は COVID-19 の重症化に有意な影響を及ぼさなかった。

3. COVID-19 慢性期の咳嗽に関する検討

○北 俊之, 新屋 智之, 高戸 葉月, 上田 宰, 米田 知晃

国立病院機構金沢医療センター呼吸器内科

【目的】新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の慢性期の咳嗽に関して検討した。【対象と方法】当院に入院した 50 例を対象に、患者背景、血液・画像・肺機能検査を検討した。【結果】初診時に咳嗽を認めた症例は 32 例(64.0%)、3 か月には 9 例(18.0%)で咳嗽が持続し、高齢、D-ダイマー、SP-D、SP-A、真菌関連の特異的 IgE 抗体、RV/TLC が各々高値であった。【結語】高齢、真菌関連のアレルギー素因が COVID-19 慢性期の咳嗽に関連する可能性がある。

4. 当院における難治性喘息に対する気管支熱形成術を施行した 10 症例の検討

○山岡 幸司, 安斎 正樹, 竹内 亜衣, 細川 泰, 木村 聡美, 三ツ井 美穂, 島田 昭和, 山口 牧子,
園田 智明, 本定 千知, 門脇 麻衣子, 早稲田 優子, 梅田 幸寛, 石塚 全

福井大学医学系 呼吸器内科

背景:気管支熱形成術は成人重症喘息患者を対象とした気管支内視鏡的治療法であり、増悪抑制、長期管理薬の減量、QOL の改善の臨床効果がある。方法:2015 年から 2022 年に当院で気管支熱形成術を施行した 10 例の治療効果について報告する。結果:年齢中央値は 61.5 歳、男性 3 名、女性 7 名。5 例で ACT の改善がみられ、経口ステロイドを内服していた 5 例中 3 例で終了することができた。結語:難治性喘息に対する気管支熱形成術は有効である。

5. 重症喘息におけるメポリズマブ (Mepo) の包括的な治療効果の評価

○原 丈介, 古林 崇史, 武田 仁浩, 大倉 徳幸, 阿保 未来, 矢野 聖二

金沢大学附属病院呼吸器内科

【背景】生物学液製剤の治療効果は包括的に評価されることが望ましい。【目的と方法】当科にて Mepo が投与された重症喘息における包括的な治療効果を、FEOS スコア (FEV1;F, 重症増悪;E, 経口ステロイド;O, 症状;S)を用いて評価した。生物学的製剤に対する応答が大きいほど、スコアが高くなる。対象は 4 症例。【結果】4 症例とも、4 項目すべての点数が増加した。【結論】Mepo は重症喘息の臨床指標を包括的に改善した。

10:00～10:40 一般演題〈耳鼻咽喉科〉

座長: 將積 日出夫(富山大学耳鼻咽喉科頭頸部外科)

6. 好酸球性中耳炎聾症例に対する人工内耳植え込み術

○杉本 寿史, 吉崎 智一

金沢大学 耳鼻咽喉科・頭頸部外科

好酸球性中耳炎は、「著しい好酸球の浸潤とニカワ状の耳漏を特徴とする難治性の慢性中耳炎」と定義され、病理学的には好酸球が耳漏および中耳粘膜へ浸潤することを特徴とする。通常の化膿性中耳炎に対する治療に抵抗し、ステロイドの局所投与と全身投与が有効とされる。しかし治療にもかかわらず難聴が進行する症例が存在する。そして好酸球性炎症が蝸牛にまでおよび聾となった場合には人工内耳植込術をうける事が選択肢の一つとなる。今回聾症例に対して人工内耳植え込み術を行った3症例を提示し、その安全性と有効性について考察する。

7. 好酸球性副鼻腔炎に伴う嗅覚障害におけるデュピルマブの治療効果の検討

○志賀 英明, 八尾 亨, 三輪 高喜

金沢医科大学医学部耳鼻咽喉科学

好酸球性副鼻腔炎におけるデュピルマブの嗅覚障害治療の機序を明らかとする。本学でデュピルマブ治療を施行した好酸球性副鼻腔炎症例のポリープスコアや嗅覚機能の推移を示す。またオルファクトシンチグラフィで嗅上皮を画像解析した。概ねデュピルマブ投与後はポリープスコアが減少、基準嗅力検査での平均認知域値も低下し気導性嗅覚障害の改善効果を認めた。一方で健常者レベルまでに嗅上皮が再生するには長期間のデュピルマブ投与の必要性が示唆された。

8. 難治性好酸球性副鼻腔炎に対するデュピルマブの有用性の検討

○館野 宏彦, 高倉 大匡, 將積 日出夫

富山大学耳鼻咽喉科頭頸部外科

2020年3月より鼻茸を伴う慢性副鼻腔炎に対し抗ヒトIL-4/13受容体モノクローナル抗体(デュピルマブ)が本邦で保険適応となり、難治性・再発性の鼻茸を伴う慢性副鼻腔炎(特に好酸球性副鼻腔炎)の治療選択肢として新しく加わった。今回は、2020年5月から2022年10月までにデュピルマブで治療した好酸球性副鼻腔炎症例23例を対象に治療効果を検討した。効果判定は、治療開始後6ヶ月の時点で鼻茸、鼻閉、嗅覚のスコアにて評価した。結果はすべてのスコアの平均値で改善を認めた。デュピルマブは好酸球性副鼻腔炎に対して有効であると考えられた。

9. 特異的抗原の感作数に着目した下鼻甲介粘膜のメタボローム解析

○小山 佳祐¹⁾, 木戸口 正典^{1), 2)}, 坂下 雅文¹⁾, 足立 直人^{1), 2)}, 井伊 里恵子²⁾, 藤枝 重治¹⁾

1) 福井大学医学部附属病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科

2) 筑波大学医学医療系遺伝医学

アレルギー性鼻炎において複数の抗原特異的IgEが陽性となる多感作の状態は罹患率増加や重症度に関わることが知られている。我々は特異的抗原感作数に着目し、鼻粘膜組織を用いたメタボローム解析を行った。アレルギー性鼻炎に対して内視鏡下鼻腔手術I型を施行した12例より採取した下鼻甲介粘膜から、ガスクロマトグラフ質量分析を用いて合計83種類の代謝産物を検出した。いくつかの有機化合物と抗原特異的IgEとの相関関係が認められたため報告する。

10:50~11:20 一般演題〈小児科〉

座長: 中村 利美(とどろき医院)

10. 表皮角化細胞破碎液中の IL-1 α による培養真皮細胞のサイトカイン産生誘導

○村上 将啓, 足立 雄一

富山大学医学部小児科

[背景]アトピー性皮膚炎における itch-scratch cycle の機序の解明のため、表皮角化細胞の破碎液が真皮細胞に及ぼす影響を検討した。[方法]培養ヒト表皮角化細胞を未刺激のまま回収して作成した破碎液(EKH)、IL-4とIL-13 での刺激後回収して作製した破碎液(T2EKH)を、皮膚線維芽細胞(NHDF)、皮膚血管内皮細胞(HMVEC-dBl)に添加し、IL-6, IL-8, TSLP の発現を ELISA, qPCR で確認した。[結果] T2EKH は、NHDF 由来の TSLP と HMVEC-dBl 由来の IL-6, IL-8 を誘導したが、誘導能は EKH に比して有意に低下した。また、T2EKH の IL-1 α 量は EKH と比較して有意に少なかった。[結語]表皮角化細胞由来物質は真皮細胞の炎症性及び 2 型サイトカイン産生を誘導する。その機序として表皮角化細胞に含まれる IL-1 α が重要な役割を果たしている可能性が示唆された。

11. アレルゲン免疫療法中に潰瘍性大腸炎と診断された 1 例

○安富 素子¹⁾, 新田 祥代¹⁾, 伊藤 尚宏¹⁾, 川崎 亜希子¹⁾, 林 泰平¹⁾, 吉川 利英¹⁾, 大嶋 勇成¹⁾, 内藤 達志²⁾

1) 福井大学医学部附属病院小児科

2) 福井大学医学部附属病院第 2 内科

症例は 15 歳男児。13 歳時に好酸球性肺炎(EP)を発症しプレドニン(PSL)治療歴がある。通年性アレルギー性鼻炎に対して PSL 終了 9 か月後にダニ舌下免疫療法(SLIT)を導入した。8 か月後に腹痛・下痢・血便をきたし、消化管内視鏡検査より潰瘍性大腸炎(UC)と診断した。本症例における EP 発症は UC の腸管外合併症であった可能性があり SLIT 導入の影響は不明だが、発症契機の明らかでない好酸球性疾患では、潜在的な全身性疾患の存在に留意する必要があると考えられた。

12. 心臓手術後に好酸球性胃腸炎を発症した1例

○白橋 徹志郎, 東 玖美, 宇佐美 雅章, 宮澤 英恵, 松田 裕介, 東馬 智子, 和田 泰三

金沢大学医薬保健研究域医学系 小児科

胎児期に心室中隔欠損症と診断された女兒。1歳6ヶ月時に心内修復術が施行された。術後の全身状態は安定していたが、術後13日目より血便が出現した。末梢血好酸球増多も認めため好酸球性胃腸炎(EGE)を疑い、1歳10ヶ月時に内視鏡検査を施行した。胃・十二指腸粘膜のびらん、結腸の高度好酸球浸潤を認め、EGEと確定診断した。血便の鑑別は多岐に渡るが、心臓手術後に認めた場合であっても循環動態の評価だけでなく、EGEを鑑別にいれる必要がある。

11:20~11:40 一般演題〈皮膚科〉

座長:尾山 徳孝(福井大学医学部皮膚科学講座)

13. アトピー性皮膚炎を伴う先天性無汗性外胚葉形成不全症の1例

○竹田 公信, 内山 恵理, 野村 史絵, 山口 礼門, 清水 晶

金沢医科大学病院皮膚科

28歳男。初診:2022年7月初旬。全身の掻痒と脱毛を主訴に当科を受診した。小児期より認める頭部の粗毛、歯牙の形成不全、無汗より無汗性外胚葉形成不全症が疑われていた。15歳時の遺伝子解析でEDA遺伝子にIVS6+3A>C変異がみられ先天性無汗性外胚葉形成不全症の診断が確定した。当科受診時の皮疹よりアトピー性皮膚炎の併発と判断し、デュピルマブの皮下注射を開始した。投与3カ月後、皮疹は著明に改善した。

14. 発症後急速に拡大し、生検後に自然消退した好酸球性蜂窩織炎(Wells症候群)の1例

○岡村 咲由莉^{1), 2)}, 飯野 史郎¹⁾, 関根 史織¹⁾, 馬場 夏希¹⁾, 坂井 秀彰³⁾, 尾山 徳孝¹⁾, 長谷川 稔¹⁾

1) 福井大学・皮膚科

2) 市立敦賀病院・皮膚科

3) さかい皮ふ科クリニック(敦賀市)

70歳、男性、既往に高血圧、高脂血症、狭心症あり。初診より3ヶ月前に誘因なく右大腿に小結節が出現した。皮疹はびらんを伴って急速に増大し、同部位の皮下に手掌大の硬結と同側鼠径リンパ節の腫大を認めた。皮膚生検では、真皮の膠原線維間から皮下脂肪織にかけて脱顆粒を伴う好酸球浸潤と肉芽腫が散見されたが、血管炎や腫瘍性病変はなかった。一般採血や創部培養にも異常はなく、好酸球性蜂窩織炎(Wells症候群)と診断した。生検後、皮疹は腫大リンパ節とともに消退傾向を示し、3か月後には自然消退した。

ランチオンセミナー

12:10~13:10 ランチオンセミナー

座長:水野 史朗(金沢医科大学 呼吸器内科学 教授)

演者:横山 彰仁(高知大学医学部 呼吸器・アレルギー内科学 教授)

共催 サノフィ株式会社

「喘息の現状と病態に応じた治療の必要性について」

最近の調査により、全身性ステロイド投与を伴う喘息増悪が高い頻度で生じていることが明らかとなった。頻回の増悪は肺機能低下や重症化の危険因子であり、ステロイドの副作用の危険性も増大させる。特に重症喘息は増悪頻度が極めて高く、ステロイド依存性を生じやすい。その対策ではデュピルマブなどの生物製剤が有用である。本剤においては、肺機能改善あるいは増悪抑制、粘液産生抑制効果などが高く、適切な患者に適切に使用することが重要である。

講演者略歴

横山 彰仁(よこやま あきひと)

昭和33(1958)年7月26日生まれ(64歳)

【略歴】

昭和58(1983)年 富山医科薬科大学 医学部卒業
昭和61(1986)年 米国シカゴ大学 リサーチ・フェロー(2年間)
平成3(1991)年 愛媛大学 助手(第二内科)
平成12(2000)年 同 講師
平成15(2003)年 広島大学 講師(分子内科)
平成17(2005)年 同 助教授
平成19(2007)年 高知大学 教授[血液・呼吸器内科学(旧・第三内科)、2019. 6.1より呼吸器・アレルギー内科学]
平成26(2014)年 同 医学部附属病院 病院長併任(2018年3月まで)
平成31(2019)年 同 医学部附属病院 検査部長併任
現在に至る

【専門医資格】

総合内科専門医・指導医、呼吸器専門医・指導医、アレルギー専門医・指導医、老年病専門医 など

【学会関係】

日本呼吸器学会：理事、前理事長（令和2年4月－令和4年4月）

第62回学術講演会会長（2022年4月）

日本内科学会：評議員（2007年～）、元理事、元四国支部長

専門医制度審議会会長（2015年～現在）

その他、日本喘息学会理事、職業・環境アレルギー学会理事など

【その他】

大連医科大学客員教授、徳島大学・愛媛大学非常勤講師

厚労省国民健康づくり運動プラン策定（令和6年度開始）専門委員会委員

「COVID19 診療の手引き」、手引き別冊「罹患後症状の手引き」作成委員

日本専門医機構 研修検討委員会（プログラム等）委員

同 総合診療専門医検討委員会委員

午 後 の 部

13:15~14:00 教育講演1

座長:大嶋 勇成(福井大学医学部附属病院小児科)

演者:足立 雄一(富山大学学術研究部医学系小児科)

「小児喘息における Exposome の影響」

第二次世界大戦以降、世界的に喘息をはじめとするアレルギー疾患の罹患率が急増してきた原因として環境の変化が考えられている。特に小児期の免疫系は環境からの刺激によって大きく影響を受ける。近年、多様な環境への曝露を Exposome という概念で取らえるようになってきており、本講演では小児喘息における Exposome の影響について最近の知見を含めて概説する。

14:05~14:50 教育講演2

座長:石塚 全(福井大学医学系部門内科学(3)分野)

演者:高原 豊(金沢医科大学呼吸器内科)

「肺癌診療における免疫チェックポイント阻害薬の使いどころ」

進行期肺癌において免疫チェックポイント阻害薬 (immune checkpoint inhibitor: ICIs)は現在標準治療として確立されている。しかしながら、ICIs の投与により間質性肺炎などの免疫関連有害事象が生じることがあり、有害事象のマネジメントも重要となっている。

また実臨床では間質性肺炎合併肺癌など、治療に難渋する症例にも遭遇する。

本講演では実臨床において ICIs を投与する際の注意点を中心に、当院での経験を踏まえながら発表する。

14:55～15:40 教育講演3

座長:清水 晶(金沢医科大学病院皮膚科)

演者:西部 明子(金沢医科大学氷見市民病院皮膚科)

「蕁麻疹の病態と治療」

蕁麻疹は膨疹が一過性に出現する疾患であり、多くは痒みを伴う。一般に皮膚マスト細胞が何らかの機序により脱顆粒し、皮膚組織内に放出されたヒスタミンなどの化学伝達物質が皮膚微小血管と神経に作用して血管拡張(紅斑)、血漿成分の漏出(膨疹)、痒みを生じる。蕁麻疹はありふれた疾患でありながら、その病態は未知の部分が多く、症状や治療内容も症例により異なる。本講演では、蕁麻疹の病態・治療について概説する。

15:45～16:30 教育講演4

座長:藤枝 重治(福井大学医学部附属病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科)

演者:三輪 高喜(金沢医科大学耳鼻咽喉科)

「嗅覚障害 最新の話」

嗅覚障害が注目されるようになってきた。耳鼻咽喉科を受診する嗅覚障害患者の半数近くは慢性副鼻腔炎によるものであり、特に難治性の好酸球性副鼻腔炎をいかに制御するかが重要視されている。嗅覚障害はアルツハイマー病の初期症状としても注目され、嗅覚検査を用いた早期診断の研究も進められている。COVID-19後の嗅覚障害では、特徴的な症状とともにその治療法の発見が求められている。本講演では嗅覚障害に関する昨今話題について解説する。

日本アレルギー学会北陸支部 第4回地方会 プログラム・抄録集

発行日：令和4年11月18日

主催事務局：金沢医科大学 耳鼻咽喉科学

〒920-0293 石川県河北郡内灘町大学 1-1

TEL:076-286-2211(内線 3423)